

オンライン会議用スピーカーフォン

ヤマハ YVC-1000 取扱事例



こんな時にご活用ください！

- A. オンライン会議のマイク・スピーカーとして
- B. 会議の記録のための録音機材として
- C. 講演のスピーカーとして

取手市議会事務局

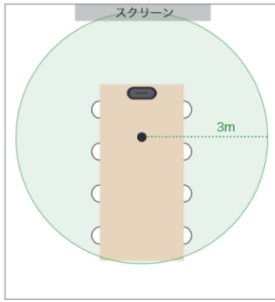
準備方法(用途 A・B・C 共通)

マイク・スピーカーの配置を決める

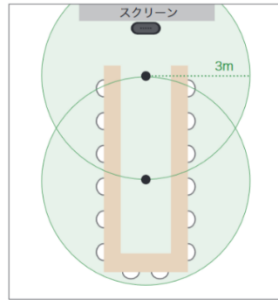
- ・マイクの收音距離は推奨 3 m 以内、最大 5 m 以内となっています
- ・最低 1 個、最大 5 個までマイクを設置できます

●收音範囲イメージ図 (推奨 3m 以内/最大 5m ※マイク 1 台あたり)

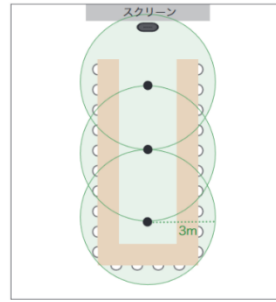
マイク×1



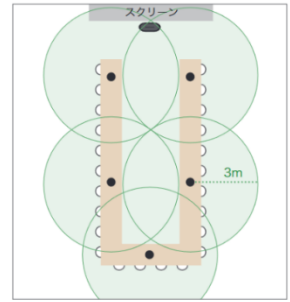
マイク×2



マイク×3

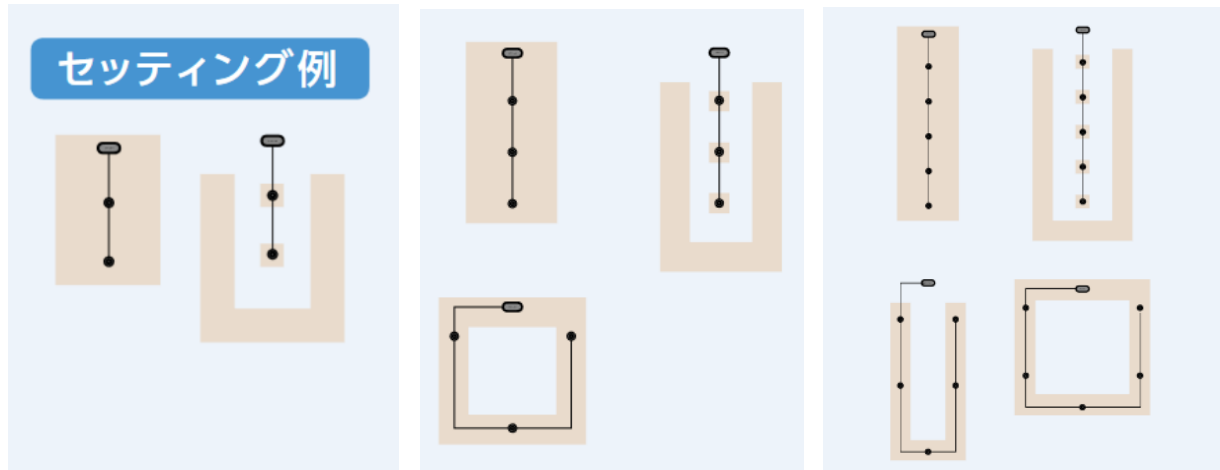


マイク×5



- 收音範囲は使用環境/条件によって変わる場合があります。
- YVC-1000 では話者とマイクの距離が近いほうが收音時の音質が向上します。
- 「マイク×3」と「マイク×5」の机レイアウトは同じですが、マイクを話者の近くに置いた「マイク×5」の方が通話音質がよくなります。

セッティング例

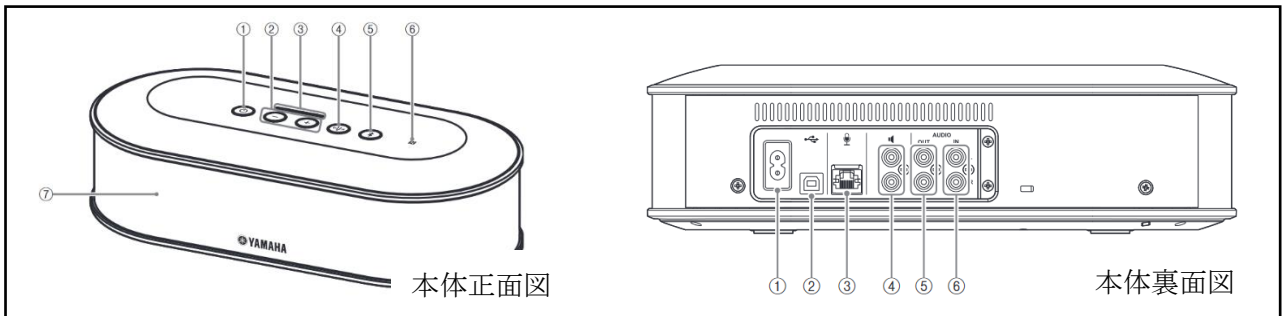


【注意事項】

- ・スピーカーとマイクは 1 m 以上開ける
- ・マイクは雑音発生源 (プロジェクター・パソコンのファン等) からできるだけ離す
- ・外部スピーカーも接続可能ですが、「アンプ付き」のスピーカーが必要です
(外部スピーカー無しでも、音量を最大にすれば結構遠くまで聞こえます)

線をつないで、音響調整

使用するケーブル類をつないでいきます



1. 本体裏面③に付属のマイクケーブルをつなぐ



この際「本体～マイク①OUT」、「マイク①IN～マイク②OUT」…の順でつなぐ。

2. 本体裏面①に電源ケーブルをつなぐ。

3. 本体上部の①で電源をつけ、②で音量を調整。

4. 本体上部の④（音叉ボタン）を長押しし、自動音響調整を行う

音声案内の約5秒後、ホワイトノイズ（砂嵐の音/サーという音）が流れます。

この際、マイク・スピーカーから離れ、静かにお待ちください。

この作業で、スピーカーからマイクの位置・距離・空間等を把握しているようです。
自動音響調整終了後にマイクの位置をずらした場合は、再度この操作が必要です。

5. スピーカー・マイク設定完了

使用用途に合わせて準備を行ってください。

使用用途別の詳細な説明は次ページからです。

準備方法(A:オンライン会議)

オンライン会議のマイク・スピーカーとして

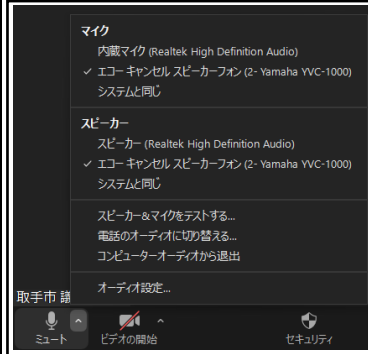
パソコンの拡張マイク・スピーカーとして使用する方法です。

マイク同士のハウリング等が抑えられ、相手には聞き取りやすい音声伝わります。また、相手からの音も綺麗に拡声されることで、ストレスなく会議ができます。

1. 同梱のUSBケーブルを使用して、パソコンと本体をつなぐ
2. Zoomを立ち上げる。必要に応じてマイクの設定を変更する
マイク・スピーカーを「エコーキャンセル スピーカーフォン Yamaha YVC-1000」に
3. 各マイクの上にあるマイクボタンを押すことで、Zoom と連携し、ミュートになる



1. USBは電源とマイクケーブルの間



2. マイク脇のボタンで変更



3. 赤点滅はミュート中 (右)



委員会室でオンライン会議をするイメージ写真
別途カメラを用意することで全体を映すことも可能



準備方法(B:会議記録作成のための録音)

会議の記録のための録音機材として

高性能マイクとして本機を使用する方法です。

大会議室・執行部控室のマイクとは異なり、マイクのオンオフ操作を必要としないため、慣れていない方がいらっしゃっても録音できます。また、マイク等の設備がない会議室において、ICレコーダーを中央に置くよりもはっきりと録音ができるため、議会事務局に設置されている音声から文字起こしする機械と組み合わせることで、会議記録作成の時間を短縮することができます。

1. RCAピンプラグ（赤白）を、本体裏面⑤の「OUT」に差し込む
もう片方をICレコーダーにつなぐ
2. ICレコーダーで録音する
3. 議会事務局に音声データを持ち込んで、文字起こし機に認識させる
（認識には会議時間と同じくらい時間がかかる場合があります）
4. 文字起こしした文字データをイントラで議会事務局職員から受け取る



1. 赤白とICレコーダーをつなぐ

委員会室で録音をするイメージ。

パソコンをつながなくてもYVC-1000はマイクの役割を果たす。



準備方法(C:講演)

講演のスピーカーとして

高性能スピーカーとマイクとして使用する方法です。
有線接続されたマイクの音のみが拡声される機能を利用して、講演等に使用できます。

1. RCAピンプラグ（付属）を、本体裏面⑥の「IN」に差し込む
もう片方（XLR）を付属マイクに差し込む（最大2本まで拡張可能です）



（マイクの音声は、卓上マイクとミックスされてパソコンに入ります。
A. オンライン会議でマイクを使用することも可能です）

使用上の注意・ポイント

- ・ 付属品の取扱いには十分お気を付けてください。
- ・ ご不明な点等がございましたら、議会事務局職員までお問い合わせください。
- ・ 使用には事前に予約をお願いします。
（議会で使用する場合はお貸出しできません）
- ・ 使用后、感想をお聞かせください。

市議会・市での使用例(A:オンライン会議)

1. オンライン委員会

委員会がオンラインで開催される際、委員長と書記は議会棟の会議室で議事を行います。YVC-1000を使用することによって、音響装置が整っていない部屋でもオンライン会議を開くことができます。



オンライン委員会で YVC-1000 を使用している様子。各テーブルに YVC-1000 のマイクを設置することで、お互いの距離を保ちながらも全員の声을クリアに録ることができます。また、相手からの音声もクリアで聞き取りやすいため、議論が滞りなく進みます。

2. オンラインセミナー

大人数が一か所に集まって参加するオンライン会議でも YVC-1000 が活躍します。YVC-1000 の最大音量は、当市議会の議場で使用する分には十分でした。また、拡張マイク 5 個で十分にクリアな音声を届けることができました。



早稲田大学マニフェスト研究所で行われている「議会改革度調査 2020」の調査結果報告会に、議場から YVC-1000 を使用して参加。総合 1 位となり、議長がコメントをしている写真です。マイクは机の上に設置。自然な姿勢のまま会議に参加できることも利点です。

3. 市災害対策本部（訓練）

災害対策本部での情報共有方法の一つとして、本部と現場をオンラインでつなぐことを想定し、YVC-1000 を活用した訓練を行いました。



市災害対策本部に設置された YVC-1000。災害対策本部には、市長をはじめ、副市長、各部長の計 13 人と情報班の職員等が参加する。YVC-1000 の集音・拡声性能は、広い部屋の会議でも成立します。

市議会・市での使用例(B:会議録作成のための録音)

1. 通常の委員会

マイク等の音響設備がない部屋で会議を行う際、今までは IC レコーダーを中央に置いて記録をしていました。録れた音声は不鮮明で、文字起こしシステムに読み込ませても、正答率は 20%程度でした。YVC-1000 をマイクとして活用した場合、音が鮮明に録音でき、文字起こしシステムの正答率が飛躍的に向上しました。その結果、職員の会議録作成時間短縮につながっています。



一人一人の間隔を開けて着席しても、音声はクリアに録音可能。

2. 審議会

当市の会議室マイクは、ボタンを押してから発言し、発言終了後にボタンを再度押します。この会議室マイクに慣れていない外部の方が会議に参加する際は、ボタン操作忘れによって発言が録音できていない事例も多くありました。YVC-1000はボタンの操作が必要ないため、全ての発言を録音でき、会議録作成業務の負担軽減につながりました。



市議会での使用例(C:講演のスピーカーとして)

オンラインセミナー（スピーカー機能も使用）

拡張マイクは拡声できませんが、背面の「IN」に入力されたハンドマイクは拡声されます。スピーカーが非常に高音質で、大きな音を出力できるというメリットを生かし、セミナーのマイク・スピーカーとして使用しました。



オンライン報告会でスピーカー機能を使用した様子。「IN」に入力されたハンドマイクを司会が持ち、拡声。答える議員は、拡張マイクで答えました。拡張マイクでカバーできない範囲に座る職員は、ハンドマイクを持っていくことで、声を届けました。

